

幕別町廃棄物減量等推進審議会会議報告（議事録）

- 1 日 時 令和6年8月21日（水） 9時58分～10時45分
- 2 場 所 幕別町役場3階会議室A B
- 3 出席者 （委 員）
矢野義則、三好誠、樋渡敦、森 徹、岡本幸穂、安部史郎、
沼口信昭、松島千秋、岩野英法、池田明子、千葉美由紀
(13名中11名出席)
- (事務局)
寺田住民生活部長、半田防災環境課長、谷口地域振興課長、
佐々木地域環境係長、七原主査、青山主事補、長田住民生活係長
長瀬防災危機管理係長、鷲見主査
- 欠席者 (委 員)
竹内睦、相馬勝彦
(13名中2名欠席)

4 審議内容

※ 審議の前に、今年度変更となった委員及び事務局の紹介を行った。

- ・ 委員 幕別町商工会 三好委員
札内清掃センター 松島委員
- ・ 事務局 防災環境課 半田課長
同課地域環境係 七原主査、青山主事補
(忠類) 住民生活係長 長田係長

① 報告第1号 令和5年度ごみ排出量の実績について

幕別町第2期ごみ処理基本計画<改訂版>に基づく令和5年度のごみ排出量の実績及び検証について説明を行った。

【要旨】

- ・ 令和4年度から忠類地域のごみ処理が十勝圏複合事務組合に移行したことにより、資源ごみ及び直接搬入ごみの搬入量が合算となり、地域別の排出量が不明であることから、可燃ごみ以外の検証は全体実績のみで行う。
- ・ 計画収集ごみ全体の排出量は減少傾向であるが、そのうちの可燃ごみは令和4年度から横ばいであることから、家庭から資源ごみや集団資源回収に排出される量が減少し、資源化が課題であると推察される。
- ・ 直接搬入ごみは、事業活動量がコロナ禍前に戻ったことから排出量も令和元年度と同等まで増えている。全体計画の目標と実績の差が大きくなっていることから、家庭系ごみ・事業系ごみ共に資源化が課題である。

- ・ リサイクル率は、目標に達しておらず、差も開いている状況である。これは、町内会加入者の減少による集団資源回収量の減少が主な要因のほか、計画収集での資源ごみ排出量も微減が続いていることから、町民への啓発を引き続き行う必要があると考えられる。
- ・ ごみ処理基本計画の基本目標である「自然との調和で快適な住まいる」実現のため、3つの基本方針に基づき様々な取り組みを行っている。今後も引き続きごみの減量化に向けて取り組んでいく。

※ 質問・意見なし

② 報告第2号 「幕別町災害廃棄物処理計画」の策定について

令和6年3月に策定した「幕別町災害廃棄物処理計画」について、概要を説明した。

【要旨】

- ・ 本計画は、国の「災害廃棄物対策指針」に基づいており、北海道の「北海道災害廃棄物処理計画」や町の「幕別町ごみ処理基本計画」及び「幕別町地域防災計画」と整合を図りながら策定したもので、町の両計画の下位計画として位置づけられる。
- ・ 本計画で対象となる災害は、被害が最も大きいと見込まれる「十勝平野断層帯主部」の地震（冬の夜間）とし、その被害想定を基に発生する廃棄物量を算出。
- ・ 災害廃棄物は一般廃棄物であることから、通常のごみと同様に町が処理主体となり十勝圏複合事務組合で中間処理・最終処分を行うこととなるが、通常のごみと違い一度に大量に発生することから、3年間で処分することを想定している。
- ・ その際、仮置き場で分別をする必要があり、旧車両センターを仮置き場とする。しかし、当該地だけでは面積が必要数に満たないため、被災地との距離や浸水想定区域外であることなどを勘案しながら、5か所の仮置き場候補を設けたほか、国や道とも協議のうえで国有地・道有地の使用も検討する。

※ 質問・意見なし